



### 歴史研究プロジェクト

# 国家の歴史認識を現代史の課題として、 その実態に迫る

道徳科学研究所教授  
歴史研究プロジェクトリーダー

にしおか つとむ  
西岡力

歴史研究プロジェクトでは、国家の基本問題である歴史認識問題について歴史的実を踏まえたくて、現代史の課題として地域研究の手法も活用しながら実態に迫ります。その際、価値相対主義に立たず、人類の普遍的価値観である「道徳」の実在を前提にし、漸進的文明論のアプローチを取ります。成果は、研究紀要『歴史認識問題研究』（年二回発行）などで公表。公開シンポジウムなどの開催も予定しています。

### 歴史認識問題の定義

歴史認識問題とは何か――。

まず、歴史認識問題を定義しましょう。

私たちの定義では、単純に複数の国や民族間でお互いに関わる歴史認識が対立していることを歴史認識問題とは言いません。○

○問題という言い方をするときには、未だ解決していない課題がある、あるいは残っ

ていることを指しますが、通常の主権国家同士の間では、戦争や植民地統治などの過去に関わる清算は、条約や協定で行います。それを結ばば内政不干渉の原則により、いくら相手の歴史認識が自分たちと異なっても外交問題とすることはありません。これが現代の国際法の原則です。本来、歴史教科書記述や戦没者追悼方法などは主権国家の内政に属します。したがって、歴史認識に関わる事象に対して他国政府が干渉し、外交問題化することは、一言で言うところ内政干渉です。そのような内政干渉を歴史認識問題と定義しています。

### 成果は、書籍等で広く発信

当プロジェクトの成果として年二回発行する『歴史認識問題研究』は、今年度は九月に九号を、来年三月に十号を発刊します。また、プロジェクトリーダーの西岡が、こ



残高24,000円の台湾慰安婦の預金通帳。  
性奴隷ではない証拠

れまでの研究成果の集大成として、八月に『日韓「歴史認識問題」の40年』(草思社)を出版しました。また、同じく西岡が十一月中旬にモラロジー道徳教育財団から研究成果をまとめた単行本『わが体験的コリア論』(本誌裏表紙を参照)を出版します。新型コロナウイルスのため、海外での調査、海外研究者との交流が困難になる中、歴史認識問題に関する二冊(『よくわかる慰安婦問題』『でっちあげの徴用工問題』)の研究書が韓国語に翻訳されて出版されたのも、当プロジェクトの成果の一つです。

今後は韓国・台湾・米国等の研究者との交流をより深めていきたいと準備しています。